

令和元年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
林産部門

震災を乗り越え安全・高品質な乾しいたけ作り

○氏名又は名称 芳賀 隆・芳賀 幸子

○所在地 岩手県下閉伊郡山田町

○出品財産物（きのこ類）

○受賞理由

・地域の概要

山田町は、岩手県の沿岸部、陸中海岸のほぼ中央に位置し、水産業などの第一次産業を主要産業とする町である。波穏やかな山田湾から採れる殻付きカキは、東京の市場などで有名であるほか、緑豊かな山あいから得られる豊間根荒川のマツタケと乾しいたけの品質も高い評価を得ている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

芳賀氏は、地域を代表する原木乾しいたけ生産者である父の下で研鑽を積み、平成25年に経営を譲り受けた。この地域は、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、ほだ木を廃棄することとなったが、産地回復を目標に、国及び県の定めたガイドライン等に基づき、栽培管理を徹底し、安全・安心な乾しいたけ生産に取り組んでいる。

・受賞者の特色

（1）品質向上のための栽培管理

芳賀氏は、露地栽培とハウス栽培を組み合わせることにより、気象条件に左右されにくい独自のしいたけ栽培技術を確立している。露地栽培を行っているほだ場では、散水施設による成長・発生管理を徹底し、冬期間の収穫・収入が少ない時期は、ハウス栽培を活用した品質の高い乾しいたけ（一部生しいたけ）を生産し、労働力と収入の平準化を図っている。栽培方法の特徴としては、散水の際に、1つ1つのしいたけにビニール袋をかけてから散水を行い、その後に袋を外すことで、白く亀裂のはっきりした花柄と身の締まった高品質のしいたけ栽培に成功している。

（2）女性の活躍

幸子夫人は、乾しいたけの規格選別や販路開拓に多大な貢献をしている。事故後は、風評被害により既存の販路を失われたが、道の駅やデパート、各地の試食・販売会に出向き、消費者と対面で話をし、栽培方法や品質の良さ、調理方法等を丁寧に説明しながら、ニーズに対応した商品を出荷するなど販路拡大に努めている。

・普及性と今後の発展方向

芳賀氏は、原子力発電所事故に伴う風評被害等の影響を受けながらも、生産量の回復と経営力の向上に取り組み、全国規模の品評会で連続して賞を受賞するなど、しいたけ産地の再生や地域の活性化のモデルとしてさらなる活躍が期待される。